

第4期さいたま市外国人市民委員会 第2回委員会 会議録

令和2年12月8日（火）～12月22日（火）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第2回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の議題について

事務局案

国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたい魅力ある街づくりに向けて
(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について
(2) 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

賛成：8

反対：0

※2名不参加

2 議題案を実現するための課題、解決策について

(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

課題：学校の英語書類（リアンダー・ヒューズ）

解決策：学校に英語対応が出来るスタッフを一人配置する。その人が英語の書類をつくる。予算的に難しければ、今は無料の翻訳サイトもあるので、メールでもらえれば、外国人でも翻訳できると思う。もともと、学校の手紙に不要なものが多いので、なんの書類が本当に必要なものなのかが、分かりにくい。そこは教育委員会や学校が決めて、なるべく書類を少なくする努力をしてほしい。そうすれば、本当に必要な書類が分かりやすくなると思う。

課題：PTA 役員（リアンダー・ヒューズ）

解決策：どうしても日本語が出来ない外国人は簡単な仕事（草むしりなど）をするなど、PTAの仕事とは何かという説明書類を英語で作成してもらおう。日本人の保護者と業務で不平等感がないようにしないと本当の親睦は生まれません。

PTAの役員ができないなら、学校のイベントとかで自国の文化を紹介するイベントを企画して、日本人保護者とのコミュニケーションや文化を理解する機会を持つ努力をする。

外国人側も日本語が分からないなどを言い訳にしているのは、日本社会に溶け込むことは難しいと思う。外国人が多い学校では、英語スタッフを配置してこうしたことを外国人に説明して、理解してもらおう。

課題：学校生活におけるいじめの問題（林 景禧）

解決策：学校という教育現場にいる教員に異文化理解のための教育を行い、外国人が日本社会で生活する事がどれほど大変か理解してもらおう。また、その様な教育を受けた教員が学校生活の中で子供達に対して学んだ事を実践する。また、教員が実践出来ているかを確認出来るような仕組みを作る。

課題：日本人生徒の保護者と外国人生徒の保護者間の交流不足（林 景愷）

解決策：日本人生徒の保護者と外国人生徒の保護者それぞれから PTA の理事を選出し、お互いに協力しながら PTA 活動を推進する事で自然な交流を図れる仕組みを作る。

課題：日本語を学ぶ場の提供（西川ナンシ）

解決策：放課後の学校で地域に住む外国人向けの講座を行うなど、通いやすい身近な場所で日本語を学ぶことで、その地域に住む人どうしのコミュニケーションの場にもなる。学校は各地域に必ずあり、場所の認知度が高く身近で通いやすい。子供も親も気軽に通うことができ、日本語だけでなく、生活に必要なルールや情報を学ぶことができ、夕方に講座を行えば大人も通いやすいと思う。

課題：生活、仕事、学校、子育て、災害などの場面において、活用できるレベルの日本語の習得と定着（西川ナンシ）

解決策：日本語の講座の内容も生活に密着した内容で進める必要があります。その人の生活の中で必要な内容を自分で選択できるやり方があって良いと思います。ただ言葉を覚えるだけ、文字を作業的に覚えるのではなく、実践的に使えるように内容を分割して自分で講座を選んで通うのもやりがいにつながっていきます。

課題：ネット上での講座（西川ナンシ）

日本語の講座内容を簡単にまとめたものをネットで見るのができたら便利であると思います。

課題：解決の方法を案内できる人が必要（西川ナンシ）

解決策：学校に通う生徒や親のサポートとして日本語指導員の派遣回数を増やしたり、問題の解決方法の案内ができるコーディネーターやソーシャルワーカー、講師などの派遣があるとより良い環境になると思います。生活する人に寄り添うケアが大切です。

課題：外国人の先生、日本語の先生の配置、経済的に困難な子どもへの支援（ラ・コウ）

解決策：学校で、母国語が話せる先生をつける。子どもの成長状況を常に把握する。

専門の日本語先生を設置する。子どもは日本語ができれば、生活も楽になる。

経済困難の子どもに教材費等を免除する。不登校を0にする。

課題：外国人の子どもたちを支援するのであれば、まず着手すべきと思うことは、外国人のご家族、子どもがおかれている状況はいつもどんな状況なのか、把握すべきであると思います。特に出身国が宗教などの理由で、日常生活習慣、飲食が普通の日本人と合わない外国人の子どもたちは、最初から力を入れる必要があります。（ライ・ウダラ）

解決策：子どもの状況を通じて、外国人の家庭とつながりを作ることで、日常生活の中で、この家庭がいつもどんな所に問題が発生しているのか、理解、把握できると思います。具体的な支援策としては、学校で、外国人の子どもが飲食できる、小量特別ランチメニューを提供する（例えば対象がイスラム系の家庭の子どもで豚肉が食べられない場合）。現地の生活習慣を積極的に理解できる非常勤講師を配置する（他国生活習慣をよく知っている非常勤先生がいることで、外国人が普段相談しにくいことがあれば、随時コミュニケーションを取ることができる）。

課題：日本語支援（イ・ユジン）

解決策：日常生活のための日本語を含め幅広い分野の日本語支援が必要だと思えます。学校へいる間も可能であれば放課後に日本語で学校教育を受けられるように補助や支援があるとありがたいです。学校だけでなく家庭、保護者の方が日本語に困ると子供にも影響があり、不登校や心の悩みなどいろんな問題が起こる可能性もあります。子供の進学、三者面談など保護者が関する学校行事も多いので、学校と家庭がちゃんとつながるようなシステムがあるといいと思えます。学校のHPとかに短い英語でも案内を出すとか、学校に提出する書類の書き方の例があれば助かります。

課題：外国人への差別（イ・ユジン）

解決策：差別を減らすために多文化、異文化を持っている人々を理解して彼らと一緒に歩む内容の資料とかを授業を学校で行うことは可能でしょうか。

課題：子育てをしており、もうすぐ小学校に入学します。今はコロナ感染予防のために、こどもたちは咳が出てるだけで学校を休まなければなりません。その場合親も休みを取らなければなりません。年休が足りない場合など、とても困っています。外国人として、自分の家族もいないので、身近に預けられるところがなく困っています。（里村オアナジョルジアナ）

解決策：預けられる場所があればとても助かります。

（2）外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

課題：ナイトマーケット、イルミネーション（リアンダー・ヒューズ）

解決策：ナイトマーケット案に関しては前回提案した通りです。それに追加して、冬はイルミネーションの街など、分かりやすいネーミングをつけて、大規模なイルミネーション（東京でやっているような感じ）を町中で行う。さいたま新都心のイルミネーションレベルでは、都内や県外から観光としてさいたま市に来ないと思う。

課題：文化体験（リアンダー・ヒューズ）

解決策：観光地としては、さいたま市は何もないので、文化体験ができる町として外国人に発信する。さいたま市に行けば、「なんでも日本文化は体験できる」というキャッチコピーを作る。文化体験で、生け花、着物、茶道、書道、座禅、料理教室、陶芸、そば打ち、盆栽など、日本人の先生が各自で日本人向けに行っている教室はあるかと思いますが、そこを外国人観光客にも周知したり、協力してくれる教室を見つけて、情報を1つにまとめたウェブサイトや案内所を作る。文化体験をした外国人はさいたま市のホテルやレストランを割引価格で提供する。タクシーとセットプランなど、色々パッケージプランはあってもいいと思えます。

課題：さいたま市を楽しい思い出を作る場所にする。限られた観光資源を引き立たせる。もっと見たくなる案内を行う。（西川ナンシ）

解決策：行った場所で出会った人や体験したことはすてきな思い出になり、またその思い出はその場所のイメージにつながると思えます。素敵な場所に行ったり、美味しいものを食べたり、地域にちなんだものを作ったり、みんなでイベントに参加したり、ホームステイしたり、埼玉県やさいたま市に来た観光客は何をみて、あるいは何がきっかけで来てくれているのでしょうか？私からの提案は次の

場所に行きたくなるしかけをいろんな場所に置くことです。観光地のルート案内も良いですが、行った先で次の場所に行きたくなるきっかけになる工夫が必要だと思います。

課題：日本の経済において、観光収入は重要な要素となっています。外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取り込みが、高齢、中年、青少年に三段階で切り分けて中年、青少年向けの誘致について、ディスカッションしたいと思います。（ライ・ウダラ）

解決策：訪日外国人（学校間交換プログラム）学生、青少年向け、地域限定クーポンを作成、配布する。（配布ルートは、学校法人通して実行することが可能だと思います）。但し、クーポンを配布後、単なる消費の促進ではなく、地域につながる活動に参加する前提で、クーポンを使うこと。

例えば、さいたま市岩槻区で農産品、農園などの労働体験してもらい、体験イベント終了後、クーポンを使うことで、2,000円の農産品を実質70%オフで購入できる仕組み。青少年が自身の労働を通じ、さいたま市の魅力を改めて体験、学習し、さらにリワードも受けることができ、一石二鳥的な効果を最大限で達成する。青少年が外国人に当てはまる場合、日本で体験した素晴らしい経験を活かし、のちにもっと良い繋がりを作ることができるかもしれません。

課題：世界への発信、コンベンション・イベントの誘致、文化・伝統の発信（オウ・ライ）

解決策：さいたま市の有名の観光地をSNSで世界の人々に発信する。国際コンベンション・イベントの誘致を行う。さいたま市の地の利を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002など市内に立地する施設の連携と有効利用を図り、さいたま市に適した国際コンベンション・イベントの誘致・開催を推進します。日本漫画文化、伝統産業である岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のうなぎなど、海外にも通用する様々な地域資源を有しており、それらを積極的に活用することで、海外からの観光客を誘致します。

課題：さいたま市は東京から近い立地にも関わらず、観光に来る方は少ないと思います。私が感じたことだと、シンボル、ランドマークになる場所や建物が少ないし、ベッドタウンのイメージが強いです。（イ・ユジン）

解決策：大宮駅は新幹線が通る駅で、近くには氷川神社や鉄道博物館もあるので、駅を利用する人も多いと思います。駅の近くに楽しめる事があると、きっと電車から降りて観光する人も増えるでしょう。大宮駅から氷川神社までの道に、カフェ街、レストラン街、買い物街のように店を並べて観光地区みたいに設計するのはどうでしょうか。お店の情報が掲載されたマップ入りの冊子を駅に置くと宣伝の効果もあると思います。お店と駅、氷川神社を結んだイベント（スタンプラリーとか買い物のクーポン券）を開催すると日帰り感覚で、気軽に観光しに来る人も増えると思います。